

## 6 団地内の空鶏舎を利用した鳥インフルエンザ防疫演習 ～リーダー・サブリーダー研修～

○安藤祥子・小島朋子（愛知県中央家畜保健衛生所）  
アンドウサチコ

### 【背景】

本県は平成23年2月の鳥インフルエンザ最終発生から5年が経過し、発生時の防疫活動を経験していない若手職員が増えてきている。発生農場においてリーダーは多くの作業員を指揮する必要があり、指揮経験がない職員から不安の声が上がっている。平成27年9月、養鶏農家の協力を得て、養鶏団地内空鶏舎（廃業農家所有）で生きた鶏を使用した殺処分演習を通してリーダー及びサブリーダー研修を実施した。

### 【演習内容】

リーダー研修は家畜保健衛生所若手職員を対象とし、指揮能力養成のため当日現場で初めて得た情報から作業員に指示を出す訓練とした。サブリーダー研修は県農林水産事務所職員を対象とし、リーダーの補助と殺処分鶏の計数管理を目的に一連の殺処分作業を経験させた。

### 【結果】

全体を通して演習をスムーズに行うことができ、参加者には実際の鶏舎内における殺処分作業を体感させることができた。団地内の養鶏農家の配慮により、成鶏処理業者から効率的な捕鳥方法を習得できた。サブリーダーには作業の注意点と計数管理方法を理解させることができた。一方、殺処分作業において捕鳥羽数の不徹底、動線の交差が生じ、リーダーの指示及び管理不足が明らかとなった。その結果を踏まえ、28年度において、成鶏処理業者の手法・農場における鶏舎内水洗消毒の手法・食鳥処理場及びGPセンターの実状を学ぶ研修を実施し、リーダーとしての資質の向上を図った。

### 【考察】

本県では殺処分演習は何度も実施しているが、指揮者を養成する演習は初めてであった。27年度の演習を通し、リーダーは自分自身の力不足を感じていると推察された。発生農場においては、リーダー自らが現場の状況を判断し指示しなければならないこと、作業員の経験値に合った指示が必要であることがリーダーにとって重要な要素であると考えられた。サブリーダーは現場のイメージができ、安全性及び作業効率を自ら考える積極性が生まれたと考えられた。28年度の研修を生かし、より効率的、効果的な防疫作業手順を確立していきたいと考える。

### 【まとめ】

今回の演習を通して、行政、養鶏農家、関係業者の協力体制が強化された。また、リーダー及びサブリーダーの課題を明確にすることができ、今後も、リーダーシップの向上に向けてより実態に沿った研修を実施する必要がある。